

(一社) 日本橋梁建設協会における技術者育成の取組み (みかんプロジェクト)

(一社) 日本橋梁建設協会 保全委員会 正会員 ○畠山 智行 保全委員会 本間 順
 広報委員会 正会員 白石 薫

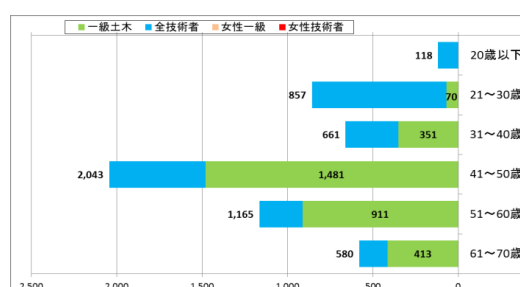
1. はじめに

鋼橋工事の発注量が右肩上がりに増えることは難しい状況において、新たな市場の創造が不可欠となる。そのためには協会加盟各社の若手が元気になり、そのつながりによって新しいアイデアが生まれ、結果建設業界全体を元気にする必要があると考えている。鋼橋を目指して入職した若手社員がワクワクしながら活動する環境を作るプロジェクト、未来の幹を育てるプロジェクト (通称みかん P J) について紹介する。

2. 背景

表1 2018年度 会員加盟会社の年代別技術者数

協会加盟会社の技術者世代別人員構成を示す。20代、30代が少なく40代以上の世代が主に鋼橋の工事を担当していることが判る。



特に今後発注の増加が想定される橋梁の修繕系の工事では多くの経験や知識が必要なため、対応出来る技術者の育成には長い時間がかかってしまう。このような背景から、鋼橋の魅力を発信することで、自らの仕事の意義を再認識すること、橋梁事業に対する社会の理解を深めること、橋梁に関わる入職者の確保に効果があると考えた。

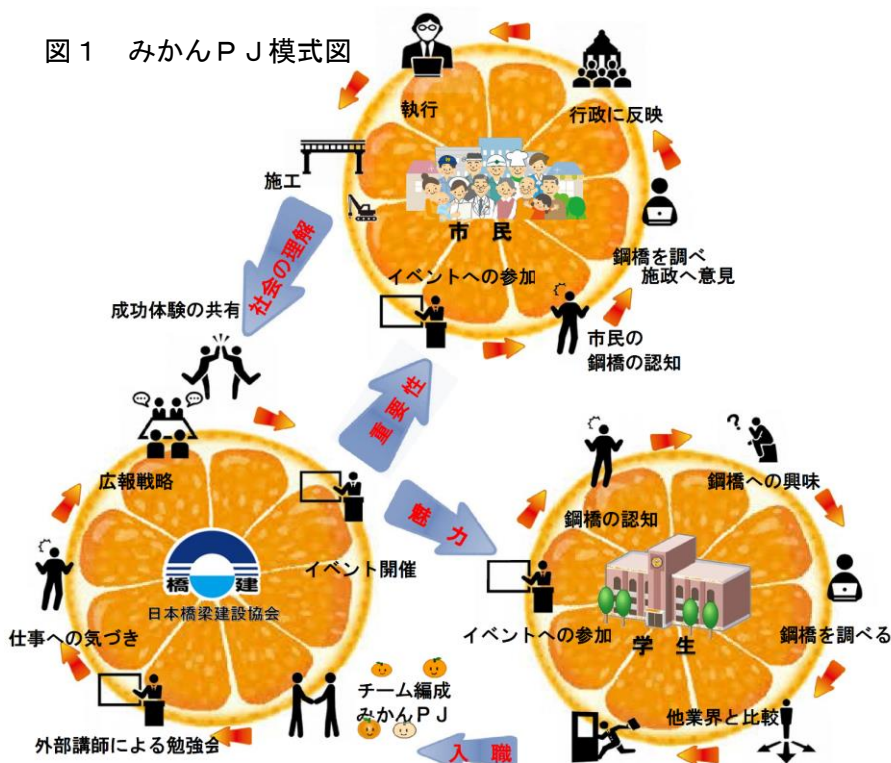
- ①特に働いている若手が自信と誇りをより強く持てるようにすること
- ②橋梁事業に対する社会の理解を深め、公共事業の拡大や事業の進めやすさを図ること
- ③これらが結果的に入職者の

増加に寄与すること

3. みかんプロジェクトの概要

橋建協では広報委員会を中心に各種イベントを開催しているが、それぞれ個別で行っていたため全体相互効果が出ていなかった。実施中のイベントを体系化し、シームレスに鋼橋の魅力を伝えることができるようにすべく、イベントの目的の明確化を行う。また、情報発信という点について、SNSなどを有効に用いるなどのアイデアを取り入れた方がより効果的と

なるため、若手を中心とした組織とすることとした。



キーワード 橋と社会 育成・継承 橋のあり方 ビジネス

連絡先 〒105-0003 東京都港区西新橋 1-6-11 (一社) 日本橋梁建設協会 TEL 03-3507-5225

表2 現在開催している協会のイベントと検討課題

項 目	ターゲット			検 討 課 題
	業界関係者	一般	入職者	
① ホームページ	○	△	△	各社のHP(インターンシップ紹介コーナー)にアクセスできるなどの工夫が必要では?WEBポータルサイト化
② フェイスブック	○	○	○	記事が少なく更新頻度が低い。虹橋の記事を発信しては?地区事務所や広報とより連携?
③ ノベリティグッズ ジグソーパズル、ハイブリッドカード	△	○	○	
④ 協会パンフレット	○	△	○ steel of bridge	どちらかというと、業界向け、一般向けのパンフレットは必要か検討
⑤ ブリッジトーク	○			今年度初めてワークショップ型にて開催したが評判も良かった。(第1回、第3回)
⑥ 出前講座(座学)			○	研究室を選ぶ前の3年生を対象としている。その後のフォローが出来ていない。学生のアドレスを入手?虹橋の記事などを定期的に発信しては?
⑦ 出前講座(木更津鋼専)			○	学生や学校からの評価は良かったが、費用がかかった。開催頻度や開催学校の検討が必要
⑧ 虹橋	○	○	○	〇向け用の記事を充実させては?
⑨ 模型コンテスト (近畿建設技術展他)			○ (高校、高专)	参加した学生に対するフォローがない。メールアドレス→メールマガジン
⑩ 模型コンテスト (JSBC)			○ (大学、高专)	協賛会に加えVRや各社のブースを今年から出展した。参加した学生に対するフォローがない。メールマガジン
⑪ 技術発表会	○			学生向けの技術発表会&企業説明会は可能か?

4. 事例の紹介 (木更津鋼橋専門学校)

鋼橋の魅力を学生に伝えるイベントを、昨年12月15日に開催した。会場は、千葉県木更津市の「国立木更津工業高等専門学校」。日本橋梁建設協会(橋建協)、ツタワルドボク、日本鋼構造物循環式ブラスト協会の共催で同校の学生約30人の学生が参加した。学生は「錆を除去せよ」「疲労亀裂を発見せよ」「補強部材を取付けよ」の3つの「ミッション」をこなした。終了後の感想文には、「土木技術者って素晴らしい」「橋は生活するうえで欠かせないものなので、それにかかわる仕事をしていてかっこいい」というメッセージなども寄せられた。

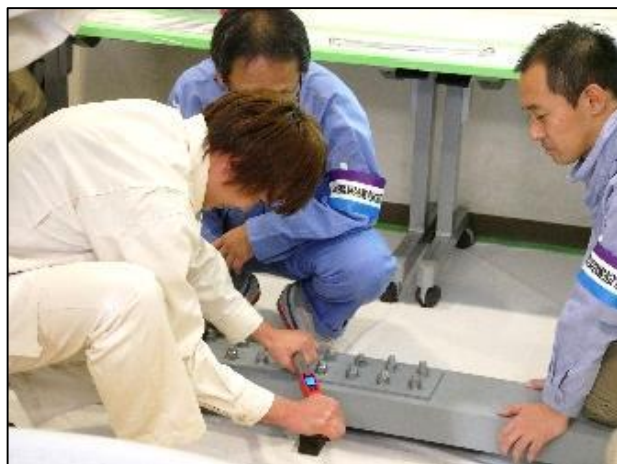


写真 出前講座(1日限定、木更津鋼橋専門学校)

5. まとめ

2018年5月現在橋建協所属会社に在籍している技術者は、約5千名、資格を取得している技術者は3千5百名ほどである。ここ数年での減少は甚だしく、担い手確保のためには入職者の推進と共に離職者の歯止めが大変重要と考えている。

そのために橋建協では、一般の方々や学生に橋梁事業の貴重さ、面白さ、やりがいの高さを伝えるべく活動をしていく所存である。若手が未来の業界を考え仲間とともに実行する、みかんPJを推進していく。今後もチャンスがあればこのような場面でご紹介していきたいと考えている。